



中国日本商会

今どきコラムー47

中国雑談

アジアでの技術革新

フランスの経営大学院 I N S E A D（インシアード）や世界知的所有権機関（WIPO）は共同で「グローバル・イノベーション・インデックス 2017」（GII）研究報告書を発表した。スイス、スウェーデン、オランダ、米国、英国がランキング上位を占めた。日本は 14 位を守ったが、中国は 22 位に躍進し、トップ 25 の中で唯一の中所得国であることが分かった。

GII は、国や地域の制度、人件費率、インフラ整備、市場成熟度、商業成熟度、知識・技術の産出、イノベーションアウトプットなどを総合的に考慮してイノベーション・インデックスを評定する包括的なシステムを構築したもので、2007 年以来、毎年発表されている。同研究報告書は特許出願件数や教育への公的支出などのデータを使用し、130 カ国を超える国や地域を対象に調査した。

2016 年度、中所得国として初めて中国がトップ 25 にランクインした。今年、中国は 3 つランクを上げて 22 位になり、そして「商業成熟度」及び「知識・技術の産出」においてそれぞれ高得点を獲得した。このほか、「研究開発会社のグローバル分布」、「商業企業の研究人材」、「特許出願件数」や「他の知的財産権に関する内容」の指標も評価されている。

地域のイノベーションをリードする国をみれば、シンガポール、韓国、日本がそれぞれアジアのトップ 3（世界ランキングではそれぞれ 7 位、11 位、14 位）を占めている。

同研究報告書は、「北米やヨーロッパなどの高所得地域は、現在イノベーションが進んでいるが、これからはアジアが 21 世紀イノベーションのエンジンになるのではないかと」予想している。技術革新において際立った成果を挙げたことが早くから人々に知られているシンガポール、韓国、日本の三国のほか、中国も徐々についてきた。中国はこれまで取り



組んできた各々のイノベーションプロジェクトで進展を見せてきた。

また、アジアではイノベーション分野で新たな「アジア四頭の虎」(Asian Tigers) が台頭していることにも言及している。「インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムは、それぞれ技術革新の環境を整備するために積極的に取り組んでいる」と同報告書は述べている。中央アジアと南アジアでは、インドがアジアの技術革新の中心となっている。インドは「グローバル・イノベーション・インデックス 2017」において 60 位で、そのランク付けが 7 年連続でインドの 1 人当たりの GDP を上回るものとなっている。

同研究報告書は、「日本、韓国、シンガポール、中国など積極的にイノベーションに取り組んでいる国もあれば、現在台頭しつつある新たな『アジアの四頭の虎』もあり、勃興しつつある新たな技術革新の中心であるインドを加え、アジアにおけるイノベーションのネットワークが、今後数十年で世界上最も活気溢れるイノベーションセンターとなるに違いない」と指摘している。

また、「グローバル・イノベーション・インデックス 2017」は、初めて世界中の国レベルに次ぐ地域レベル (sub-national) のイノベーションセンターも入れて評定した。「成功したイノベーションセンターは、一国のイノベーション全体の発展に対し非常に重要である」と同報告書は分析している。同報告書は世界知的所有権機関 (WIPO) が提供したデータに基づき、世界の先頭を走る有数のイノベーションセンターを評定した。その中には、日本の東京 - 横浜エリア、中国の深セン - 香港エリア、アメリカカリフォルニア州のシリコンバレーが含まれている。

日本と中国 (さらに香港) は、すぐれたイノベーションセンターを持っていながら、GII ランキングではシンガポール、韓国よりはるかに後ろに位置付けていることを見てみると、不思議を感じた。どう説明したらいいだろうか。

(『日系企業リーダー必読』編集長 陳言)